

令和5年度第2回大田区環境審議会 議事要旨

【開催日時】 令和6年2月16日（金） 午後2時00分～午後4時00分

【会 場】 大田区役所本庁舎9階 902会議室・オンライン

【出席委員】

おく まみ 奥 真美	東京都立大学都市環境学部 教授
しまだ まさふみ 島田 正文	一般社団法人日本公園緑地協会 研究顧問
ししめ ともひろ 志々目 友博	中央大学理工学部 教授
はせがわ のりこ 長谷川 紀子	公募区民
たむら まさゆき 田村 昌之	公募区民
おおかわ ゆかり 大川 由香理	公募区民
やまもと ゆきお 山本 幸男	大田区自治会連合会
さかの たつろう 坂野 達郎	おおたクールアクション推進連絡会
しまだ まさふみ 島田 正文（兼務）	グリーンプランおおた推進会議
まばし やすとき 馬橋 靖世	まちづくり環境委員会 委員長
かわらだ ひかる 河原田 光	企画経営部 施設整備担当部長
おおき やすひろ 大木 康宏	産業経済部長
にしやま まさと 西山 正人	まちづくり推進部長
えんどう あきら 遠藤 彰	都市基盤整備部長
やまだ りょうじ 山田 良司	環境清掃部長
いまい けんたろう 今井 健太郎	教育総務部長

（以上、敬称略）

【欠席委員】

ちば しげる 千葉 茂	東京商工会議所大田支部
かみた しろう 上田 志朗	NPO 法人 大田・花とみどりのまちづくり
こやま きみこ 小山 君子	大田区清掃・リサイクル協議会

【傍聴者】 1名

【関係部局】

施設保全課長、工業振興担当課長、都市計画課長、環境対策課長、清掃事業課長、指導課長

【事務局】

環境計画課長、環境計画課計画推進・温暖化対策担当

【次第】

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 基礎調査結果報告について
 - (2) 専門部会について
- 3 議題
 - (1) 第2次大田区環境基本計画の骨子案について
 - (2) 答申（案）について
- 4 閉会

【配布資料】

- 本紙 令和5年度第2回大田区環境審議会
- 資料1 大田区環境基本計画の策定に係るアンケート調査
- 資料2 大田区における主要な環境課題及び次期計画策定の方向性について
- 資料3 (仮称) 第2次大田区環境基本計画 骨子案
- 資料4 答申（案）について
- 参考資料1 「大田区の環境」令和4年度実績報告について※参考配布

***** 以下、議事全文 *****

1 開会	
環境計画課長	配布資料の確認。 本日、欠席委員は3名、傍聴者1名。 議事録作成のため、会議は事務局で録音させていただく。 これより奥会長よりご挨拶をお願いしたい。
奥会長	今年度、第1回目を8月に開催し、本日が第2回目の開催となる。 この間、区のほうで、環境基本計画の策定に向けて、アンケート調査を実施し、本日の議題にもある骨子案を検討し策定している。 また、自然共生社会の構築に向けた意見交換のため専門部会を開催した。 それらについて本日はご報告いただくとともに、委員の皆様にご審議いただくようお願いしたい。 いつもと同じように活発なご意見を頂戴できるようにお願いしたい。
環境計画課長	次第2の報告「基礎調査結果報告」について、事務局から報告する。
2 報告 (1) 基礎調査結果報告について	
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	事務局の環境計画課担当係長より、基礎調査結果について、報告させていただく。 資料は、本紙3ページである。 オンライン画面でも資料を共有させていただく。

最初に、区民アンケート調査概要の説明である。

次期計画の検討にあたって、区民の方の意見を参考とするため、18歳以上の大田区在住者の方から、無作為に抽出した2000名を対象に区民アンケートを実施した。

ここでは、設問の中から主な調査結果をご報告させていただく。

回答率は、31.2%だった。

これは世論調査等、他のアンケート調査と比べて遜色のない回答率だった。

次に、本紙4ページである。

大田区の環境課題に対する関心度についての設問である。

多くの項目で「関心がある」、「少し関心がある」と回答した割合の合計は、70%を上回った。

グラフでは、赤い実線で囲んだ「ア」の部分である。

一方で、②生物多様性の保全、⑧パートナーシップの推進、⑨環境に関する学習と参加の場の充実は、他の項目と比較して関心度が低い結果となった。

なお、この3項目については「どちらともいえない」と回答した割合が高く、今後分析をしていきたいと考えている。

次に、本紙5ページである。

環境問題の各分野における区民の取り組み状況についての設問である。

ごみ減量・リサイクルについての取り組み状況は、「取り組んでいる」と74%が回答しており、他の分野と比較しても高い水準となった。

皆さんにとって、日常の身近な問題で比較的に取り組みやすいということがうかがわれる。

一方で、地球温暖化については、「取り組んでいる」が30%、「これから機会があれば取り組みたい」というのが43%と半数近くを占めている。

生物多様性については、「取り組んでいる」が13%と低く、「これから機会があれば取り組みたい」は48%と半数を占めている。

また、この2者については、「わからない」との回答が2割程度あるのが特徴である。

地球温暖化と生物多様性については、実際に何をしたらいいのかわからないというのが実態ではないかと思われる。

次に、本紙6ページである。

これは、環境に関する情報の取得方法についての設問である。

①テレビは、赤く囲っている「ア」の部分で、85%と回答した割合が最も高い。

但し、媒体によっては世代間で回答にばらつきが見られ、情報元が多様化していることがわかる。

この調査では、50代、60代以上の方が多く回答しており、それを差し引くともう少し低い結果ではないかと思われる。

さらに、年代別にみると、⑦SNSは10代・20代・30代の若い世代の割合が高く、⑩区からのお知らせ（区報・ポスター）の紙媒体においては若い世代でほとんど見ら

	<p>れておらず、世代が上がるにつれて、見られている割合が高い傾向になっており、世代間の違いが顕著にあらわれている。</p> <p>次に、本紙7ページである。</p> <p>最後に、環境に配慮した行動についての設問である。</p> <p>どんなメリット、機会、支援があれば、環境に配慮した行動に繋がるかという動機について尋ねた。</p> <p>上位から「①正しい知識や情報が得られる」、「②家計にとってお得である」、「③子供の将来やより良い未来のためになる」、「④健康に良い効果がある」の4項目で回答した割合が60%を上回っているのが特徴である。</p> <p>正しく知ることを前提として、心が動くのは、お得で健康に良くて、未来・子供のためとなっている。</p> <p>一方で、意外にも「⑧補助金による支援が受けられる」は、上位4項目ほどは高くない結果となった。</p> <p>ただし、年代別では、若い世代で回答した割合が高く一定程度の動機づけになっていると思われる。</p> <p>以上で、区民アンケート調査についての結果報告を終わる。</p> <p>その他の詳細については、資料1「大田区環境基本計画の策定に係るアンケート調査」をご参照いただきたい。</p> <p>それでは、基礎調査結果報告については、以上となる。</p> <p>奥会長に進行をお願いしたい。</p>
奥会長	<p>ここからは、私のほうで進行したい。</p> <p>事務局からの基礎調査結果報告について、ご意見ご質問があればお願いしたい。</p> <p>オンライン参加の方は挙手機能を使っただけであれば、私のほうで指名させていただく。</p> <p>会場で挙手している方がいれば、事務局の方からお知らせしてほしい。</p> <p>(全委員に対して) いかがか。</p>
坂野委員	<p>前回、話した時系列、属性別のクロス集計という提案の対応について意見を反映していただいたことに感謝する。</p> <p>気になったことについて述べる。</p> <p>回答者の属性には、アンケート対象者だけではなく大田区全体の母集団がどのような分布をしているかという参考情報を追加していただきたい。</p> <p>例えば、この設問のサンプルが全体で見ると、どのくらいの母集団から偏っているかがわかると、若者と高齢の方の意見の違いみたいに、今回のアンケートの全体の読み方に影響があると思う。</p> <p>もう1つは、環境に関するたくさん質問があるので、どう分析したらいいのか、いろんな分析の仕方があると思う。</p> <p>例えば、環境に対する満足度と環境に対する関心度の質問について、時系列で比較すると、経年的に関心が高まっているもの、あるいは、関心が下がっているもの、あ</p>

	<p>るいは関心が変わらないものがある。</p> <p>もう1つは、満足度も、同じ分野で満足度が高くなっているものと、下がっているものと変わらないものあって、報告書のページ15と16を見ると、経年的に関心が高まっていて、満足度も高まっているものがあり、ごみが少なく清潔な街や町並み・景観の美しさがこれに該当すると思う。</p> <p>これは満足度が高まっていること自体は、その分野についての関係がよくなっているが、もっと良くして欲しいことなので、その政策分野としては、今までのやり方がある程度うまくいっているので、継続してそれをさらに強化していくことの政策に繋がりが、逆にその満足度が高くなって関心が下がったものをどう理解するかは難しい。</p> <p>空気と水がそれに当たると思うが、これはもう政策として、おそらくうまくいったので、強化する必要はないのではと思う。</p> <p>その組み合わせで言うと、実は関心が下がり満足度が下がり、関心が上がり満足度が下がりなどがあり、時間的な制約ですべてを分析できるわけではないが、政策につなげるときに、時系列的な満足度と関心度の高さみたいなことを比較できるようになるので、時間があれば分析をすすめてほしい。</p> <p>もう1つは、満足度は客観指標との関連が見られるとよいと考える。</p> <p>ごみの問題では、ごみのリサイクル率がどうなっているのか客観指標と関連させることで満足度が本当にどう関連しているかが見えれば、政策の評価に繋がると思う。</p> <p>3つ目は、過年度の比較において、重要な環境課題に対する関心のところで、質問の仕方が違うので、直接的に比較ができないと思う。</p> <p>例えば、報告書の22ページを見ると、地球温暖化対策について、令和5年度は、「関心がある」を5段階で聞いているが、平成28年と、平成22年は、3段階で聞いており、必ずしも同じことが対象になっているわけではないと注釈があるとよい。</p> <p>また、コメントを見ると、20ポイント高い結果になっているが、これは注意が必要で、3段階で聞いているところを5段階で大きく聞いているが、日本人は真ん中に答える傾向が高いので、3から5段階にすると、大体4に答える傾向があり、本当に関心が変わったというよりは、質問の聞き方で差が出てきている可能性が高いので、直接高くなったとは書かないほうがいいのではないかと。</p> <p>例えば、統計のプロの方に、知恵を仰ぐと、3段階と5段階すべての項目を比較してみると、設問に関係がなく、年次が変わると変化して見えるので、それをベースにどのくらい差があるかが見えると、おそらく結果が出るのかもしれないが、複雑にしても仕方がないが、書き方を慎重にした方がよいと思う。</p> <p>ただ、時系列ではなく、環境の課題に対する関心とその取り組みが進んでいるかという2つのことを聞いているので、クロスセクションとか、年度ごとに両者のクロス集計を関連で見ると、政策的に重要かについて、先ほどの前の項目と同じように分析できるので、時間が許す範囲で、政策にダイレクトに活かし評価に繋げることができると、有効になるのではないかと。</p>
奥会長	いずれも重要なご指摘だと思う。

	<p>政策に生かすためにアンケート調査を行っているので、しっかりと生かすための分析方法や結果の見せ方、整理の仕方は、しっかりと検討すべきだと思う。</p> <p>3つご指摘があったが、最初の母集団についての情報というのは、資料1の方に載っている回答者の属性や年齢や居住では、居住人数、居住地区といった情報以外に、何か必要な情報があるということか。</p>
坂野委員	<p>すみません、ここは大丈夫です</p> <p>※後日発言の訂正あり</p> <p>「標本（アンケート対象者）の属性だけではなく、母集団（大田区民全体）の属性を追加してほしい」との主旨での意見であることを確認した。</p>
奥会長	<p>説明資料の本紙ではなく、資料の1の方に調査結果の本体があり、5ページから属性が入っているので問題ないか。</p>
坂野委員	<p>見落としていたので、これで問題ない。</p>
奥会長	<p>了解した。</p> <p>2つ目と3つ目について、事務局から回答をお願いしたい。</p> <p>今後、分析に時間をかける必要があるかもしれないがどうか。</p>
環境計画課長	<p>では、事務局の方で回答させていただく。</p> <p>2つ目の関心度と満足度の経年比較ができるとわかりやすいのではというご指摘について、資料1の15ページ、16ページで、平成22年、平成28年、令和5年の質問がどのように変化しているかという一覧を載せているので、これで把握できると考える。</p> <p>一方で3つ目のご指摘の通り、過去のデータの設問のあり方が違う中で、データのポイントのみで数字比較してしまうのは、確かに気をつけるべきだと思う。</p> <p>よって、比較のあり方、またそこからどのような声を拾えるかについて、引き続き委員の皆様方に相談をさせていただきながら、進めていきたい。</p>
坂野委員	<p>15ページ、16ページ目には時系列の変化傾向が見えていて、満足度と関心度の両方の組み合わせの分析がないので、満足度が上がった場合、環境がすごく良くなったから満足度が上がって、関心度が下がることもあるし、さらに関心が高い領域があるかもしれない、もっとよくしなければならないことを表現していると思う。</p> <p>また逆に失敗している例もあると思う。</p> <p>今言った関係が逆になっていたりするのは失敗しているのかもしれないので、その両方の満足度と関心度の変化傾向の組み合わせで、政策に対する評価ができているのではというのが趣旨で、これらを考えていただきたい。</p>
環境計画課長	<p>ご指摘については、事務局の方でクロス集計ができるようであれば、さらに深掘りして検討したい。</p> <p>結果は後日ご報告させていただく。</p>
奥会長	<p>検討については、事務局にお願いする。</p> <p>アンケート結果を次期環境基本計画の策定の際に、生かせるように今のご指摘も踏まえてクロス集計を行い、政策課題が導き出せるかについてもあわせてご検討いただ</p>

	きたい。
環境計画課長	承知した。
奥会長	他の方はいかがか。
島田副会長	<p>調査および分析について感謝する。</p> <p>本紙の4ページ、5ページを見ながら、一区民として、お話しする。</p> <p>まず、4ページ、「ア」の項目は生活に非常に密着しているので、関心のある等々の比率が高いと思う。</p> <p>その一方で、生物多様性あるいはパートナーシップ、環境学習の「イ」の項目は、「関心がある」、「関心が少しある」が低く、詳細な検討については今後、分析結果を待ちたいと思う。</p> <p>生物多様性、パートナーシップ、環境学習は、見方によっては、3つとも共通していて、この3つを関係づけた施策の展開も、必要になると思う。</p> <p>続いて5ページは、私の専門で言えば生物多様性について、ネイチャーポジティブと言っても、区民のおそらく99%の方がわからないのではないか。</p> <p>審議会の中では構わないが、区民に公開していくときには、自然とか生物多様性を分かりやすく伝えられると良い。</p> <p>生物多様性の基本は、土、水、緑があって生物多様性が持続化されることだと思う。</p> <p>その反面、カラスの問題等もあるので、基本的には、土、水、緑があって、区民の方にわかりやすくすることが見える化に繋がることになると思う。</p> <p>例えば、野鳥が飛びさえずるとか、蝶々が舞っているといった表現等。</p> <p>私のマンションだと、割合敷地が広く木も大きいのがたくさんあるので、夏に親子連れでセミ取りをしている方がいる。</p> <p>一般の住宅地はなかなか難しいかもしれないが、そういう自然を何となく自然という言い方もいいが、区民にアピールするには、分かりやすく見える化することも、必要と感じた。</p> <p>それを生物多様性への理解や、あるいは関心度が増せば、評価に繋がると思う。</p> <p>今申し上げたようなこともお含みいただいて、今後分析していただきたい。</p>
環境計画課長	<p>ご意見のあった本紙4ページの「ア」と「イ」の差については、事務局としても、分析していかなければならないテーマの1つだと考えている。</p> <p>3項目を互いに関連づけた施策についても、島田副会長にご意見いただきながら検討してまいりたい。</p> <p>また、ネイチャーポジティブのようなカタカナ表記が多いので、区民の方に馴染むような表現を考えていきたい。</p> <p>生物多様性については、区民の方々に見える化ができるように整理できればと思う。</p>
奥会長	<p>こちらの報告事項についてはよろしいか。</p> <p>では報告事項の2つ目に移らせていただく。</p> <p>専門部会について、報告を事務局からお願いし、部会長を務めていただいた島田副</p>

	<p>会長からお言葉を頂戴したい。 では、事務局から専門部会の報告をお願いします。</p>
<p>2 報告 (2) 専門部会について</p>	
<p>事務局環境計画課 計画推進・温暖化対策担当係長</p>	<p>報告事項の2番目、専門部会について、事務局より報告する。 資料は、本紙8ページである。</p> <p>昨年度末に、生物多様性国家戦略が改定され、国の環境白書の中でも、気候変動や生物多様性等の問題が相互に関連し、危機的状況にあると警鐘がならされている。これらを踏まえて、今回自然共生部門についての専門部会を開催した。</p> <p>専門部会は、本審議会の島田副会長を部会長として、公募区民の長谷川様、田村様、区の課長級の職員2名の計5名で構成し、昨年12月7日に開催した。</p> <p>自然共生社会をテーマに、区民アンケート結果の速報や最新の動向を踏まえて、委員の皆様からアイデアやご意見をいただきましたので、ここでは主なご意見を紹介させていただきます。</p> <p>最初に、①大田区における自然共生のあるべき姿について、自然の少ない都市部において、どのようにすれば自然生物多様性に貢献できるかについて意見交換していただいた。</p> <p>ここでは主な意見を、3点ご紹介させていただきます。</p> <p>1つ目は情報へのアクセス向上について、インターネット上のバーチャル空間に、環境の情報センターを設置し、そこから区の身近な自然の出来事やイベント情報を発信するといったものや、チラシなどの紙媒体からQRコードを通じて区のホームページや先ほどのバーチャル空間の環境情報センターに容易にアクセスできるようにしてはといったようなご意見をいただいた。</p> <p>2つ目は、区民アンケート結果から、他の項目と比較して、身近な生き物や自然に関する関心が低く、わからないとの回答が多いことから、さらなる普及啓発の必要性があるとのご意見をいただきたい。</p> <p>例えば、区の臨海部にあるソラムナード羽田緑地の広報の際に、周辺に生息する生き物の情報を一緒に配信するとか、区の既存施設を生物多様性の観点から普及啓発につなげるといったアイデアや「大田区に森をつくろう」といったキャンペーンによる継続的な普及啓発といったアイデアをいただいた。</p> <p>3つ目は、公民連携行政間連携として、大田区の身近な自然と言えば多摩川沿いが思い浮かび、区民の皆さんが多くの生き物に触れることができる場所であるが、国や都が管理する区域も含まれているので、国や都と連携した取り組みが考えられる。</p> <p>その他にも、国の自然共生サイトに登録されている区内事業者のキャノンや、区の外郭団体である大田区環境公社、様々な事業者との連携に関する意見をいただいた。</p> <p>また、区が主導するだけでなく、区民と団体・企業を結びつけるような地域活動のプラットフォームを育てていけるとよいとの意見もあった。</p> <p>次に、本紙9ページである。</p>

	<p>森林環境譲与税の活用方法について、各自治体では、すでに令和元年度から先行して交付されていて、大田区の交付額は資料に記載の通り、現在、公共施設整備資金として積み立てている。</p> <p>来年度からは、住民税のうち年額1,000円分が森林環境譲与税となる。</p> <p>これを機会に森林整備をテーマとして、国民一人一人が税の使い道を考えるという機会ができたという意味でも、今回の専門部会において、自由な意見交換していただいた。</p> <p>ここでは、主な意見を2点ご紹介させていただく。</p> <p>1つ目は、大田区には森林が少ない都市部であることを踏まえたご意見をいただいた。</p> <p>緑化推進の基金での活用、区内の保護樹木における樹木医の専門家派遣制度、協定先の友好都市での森林保全等の意見があった。</p> <p>2つ目は、取り組みの見える化について、森林環境譲与税を活用した事業であることが、区民や施設利用者にわかるように、木材を利用している施設にQRコードつきの木のプレートで表示する取り組みの見える化等の意見があった。</p>
奥会長	<p>それでは島田副会長、専門部会の部会長を務めていただいたので、補足をお願いしたい。</p>
島田副会長	<p>部会長を務めさせていただきました島田である。</p> <p>専門部会は、公募区民の長谷川委員、田村委員、そして区の職員のお二方と、計5人で、自然共生社会の構築に関して意見交換をさせていただいた。</p> <p>事務局の方から報告がありましたので、詳細は割愛させていただく。</p> <p>今回の専門部会において、生物多様性に関するさらなる普及啓発の必要性を改めて認識した。</p> <p>これまでの手法に囚われず、課題解決に向けての新しいアイデアについて事務局から説明があり、それらを踏まえて当専門部会委員からいろいろなアイデアを発言いただいた。</p> <p>これらのアイデアから、区内の団体、事業者あるいは都や国との連携の強化の必要性を感じたところである。</p> <p>その結果、専門部会の意見が生物多様性の保全のみならず、他の環境問題の取り組みにおいても生かされることで、SDGs 未来都市大田区として、未来を担う子供たちに豊かな自然ひいては、よりよい環境を残していけるよう、本審議会の議論が活発になることとあわせて、多くの環境政策が推進されることを部会委員一同期待している。</p>
奥会長	<p>専門部会の報告について、質問や意見があったらお願いしたい。</p>
志々目副会長	<p>どこの自治体でも森林環境譲与税をどう活用するかは議題になっていて、特に大都市では議論になっていると思われる。</p> <p>私は森林環境譲与税を、緑化推進で使えばよいと希望しているが、残念ながら国の制度を見ると、大田区の場合は人工林・私有林が多分ゼロだと思うので、使い道が木材の利用と普及啓発あるいは連携している市町村に森林を入れていくことが対象</p>

	<p>になるのではないか。</p> <p>このように制度上の制約があるので、制約条件をある程度前提にした上で、この大田区の生物多様性が発展するような方向を今後考えていくのは、残念ながら限界があるのではないかと思うが、事務局からはいかがか。</p>
島田副会長	<p>事務局に代わって回答する。</p> <p>森林環境譲与税の用途については、専門部会の中でも検討しました。</p> <p>23区の各区がどういう使い方をしているか、令和元、2、3年の3年間分のデータをそろえ、使い方について検証している。</p> <p>区によっては、緑化推進に使われている区もあり、可能性がゼロではないと思う。</p> <p>新規事業等の条件はあるが、それを踏まえての事務局からの説明だと思うので、ご理解いただきたい。</p>
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>島田副会長が言われた通り、専門部会当日は他の自治体の事例等を皆さんに見ていただきながら、制約があることを前提とせず自由な意見を頂いた。</p> <p>また、来年度4月から住民税の中で、徴されるということもあり、これを機会に皆さんで税金の使い方を考える機会ができたところに意味がある。</p> <p>実際に森林環境譲与税を活用していくということになれば、志々目副会長が言われたように制約があるので、皆さんの自由な意見を踏まえ行政の知恵の中で、いい方向に考えていきたい。</p>
奥会長	<p>専門部会の報告については他の方はいかがか。</p> <p>それでは、議題に移らせていただく。</p> <p>1つ目の第2次大田区環境基本計画の骨子案について、まず事務局から資料の説明をお願いします。</p>
<p>3 報告</p> <p>(1) 第2次大田区環境基本計画の骨子案について</p>	
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>事務局から議題について説明させていただく。</p> <p>1点目の第2次環境基本計画の骨子案について、資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>資料は、本紙10ページである。</p> <p>なお、骨子案本体の詳細は、資料3である。</p> <p>骨子案の内容は本紙の方に転記しているので、本紙を中心に説明させていただく。</p> <p>次期計画の骨子案の策定にあたっては、先ほどの区民アンケート調査結果をはじめ状況把握を行い、現行計画の課題を抽出した上で、次期計画策定の方向性を策定・整理している。</p> <p>なお、詳細は資料2「大田区における主要な環境課題及び次期計画策定の方向性について」にまとめている。</p> <p>情報量が多いので、詳細は省略する。</p> <p>次に、本紙11ページになる。</p> <p>先ほどの区民アンケート調査結果の振り返りとして、環境問題は複雑多様化し、複</p>

合的で相互に関連していて、気候変動や資源開発、大量消費が自然や生態系にダメージを与えたり、自然環境の保全・回復が気候変動を和らげたりとか、自然、資源循環が自然への環境負荷を軽くしたりとか、すべては地球という1つの環境系の中で、影響し合っている。

これらの解決のためには、従来の縦割りの課題提起とその個別対策というやり方をアップデートして、すべては一体と考える統合的なアプローチが必要であると考え

る。

区の現行計画の体系で言うと、5つの柱である基本目標による課題認識に留まらず、分野横断的かつ施策横断的な取り組みにより同時解決が重要と考える。

本紙の11ページでは、先ほど紹介した区民アンケート調査結果を振り返ると、身近なごみ減量とリサイクルの取り組みが進んでいるが、地球温暖化や生物多様性の取り組みは、まだまだ弱いことがわかると思う。

今回、この新しいアプローチをわかりやすくしていくことが重要だと考え、この課題意識をビジュアル化したのが次の本紙12ページである。

真ん中が、区が目指す環境像で、持続可能な環境先進都市おたを実現するために、一番外側から区民、事業者、区をはじめとするあらゆる主体のパートナーシップを土台として、真ん中に向かって3つの目標達成を通して、環境、産業、生活の好循環により、真ん中のビジョンに近づいていくことを示している。

外側から内側に向かっていくということをイメージし、3つの分野が相互に関連し影響し合い、縦割りの中で課題をとらえるのではなく、同じお皿の上ののっているというイメージを打ち出したいと考えている。

境目がグラデーションになっているのは、双方が浸透し合っているとか、影響し合っていることを表現している。

真ん中の3つの目標は、脱炭素社会への移行、カーボンニュートラル、自然再興の取組、ネイチャーポジティブ、循環経済への移行、サーキュラーエコノミーという言葉で、これは仮の意味で置かせていただいております、一般的になじみのない難しい言い方になっていると思う。

事務局としても、今後、わかりやすい言葉にしていきたいと考えており、本日の審議の中で、いろいろ意見やアイデアをいただきたいと考える。

次に、本紙13ページである。

さきほどの3つの目標は、国の考え方も参考にしている。

ご覧の通り、環境施策は様々な分野と密接に関係するため、分野横断的、施策横断的な統合的アプローチにより、相乗効果を図るということが重要とされている。

区においても、この課題意識を共有して、国の施策とも連携したいと考える。

次に、本紙14ページである。

続いて施策体系の整理のイメージは、本紙12ページの円環イメージをもとにして現行計画の大田区環境アクションプランにおける取組方針、環境課題を仮置きしたものである。

取組方針には、目的を共有し、相互に関連し合うものが多数ある。

例えば、これが本になり、計画本編の章立てのようなものになるときは、このような整理イメージになると思う。

取組方針の赤い部分については、現行計画をもとに仮に入れたもので、今後新しく見直していく予定である。

次に、本紙15ページである。

参考資料として、現行計画の大田区環境アクションプランの施策とさきほどの3つの目標とパートナーシップがどのような関係になっているかを、星取表にしたものである。

全部にマルはつけ切れていないが、大体どの課題についても、いくつかの複数の目標に関わっているというところがおわかりいただけと思う。

次に、本紙16ページである。

次期計画における進捗管理指標の整理の方向性について、ここは計画の中身の話ではなく、テクニカルな話になる。

我々の想定をこえた速さで気候変動や生物多様性の損失等が進み地球環境の悪化に対して、時代のスピード感や技術革新に対応し、時には区が率先して次々に実証的な取り組みを繰り出していく必要があると考える。

このような時代において、P D C Aを機動的にまわしていかなければならない。

従来の10年計画とか、5年の中間見直しというようなスピード感では、対応し切れなくなってきている。

常にチェックを入れる仕組みをつくらなければ、賞味期限切れとなった事業を続けていくことになってしまう。

そこで、チェックを入れる道具や物差しとして、適時適切に、設定していく必要がある。

その物差しをここではK G I ・ K P I と表している。

(参考資料を投影) ※資料は投影のみ

この資料は画面でのみの紹介となる。

8月の環境審議会でも少し触れましたが、K G I、K P I とか、簡単に我々のほうで出しているが、K G I は、ゴールに向かってどれだけ近づいているかを測ることが、一般的な目的と言っているようなイメージかと思う。

一方、K P I のPはパフォーマンスをさし、どれだけパフォーマンスが上がっているかを、測るもので手段の話である。

どれだけくるくる回っているかをイメージして、頭の中で整理してください。

また、本紙16ページに戻って説明する。

モニタリングには広くとらえると世論調査とかも含められ、例えば、満たすべき基準があり、その基準に合格しているかどうかというイメージである。

現行計画の進捗管理指標は、K G I、K P I、モニタリングの指標の3つが混在しており、特にK G I とK P I のようにどれだけ目標に近づいているかと、どれだけ取

り組みをやっているかが、きちんと整理されていないとPDCAがうまく機能せず、思考停止のまま、手段が目的になっている状態が続くといった問題意識を持っている。

次に、本紙17ページである。

現行の大田区環境アクションプランの指標を3つの区分で分類したもので、基本目標の中でKPIとKGIが混在しているのが分かる。

次に、本紙18ページである。

次期計画における進捗管理指標は、こちらのイメージで考える。

次期計画においては、3つの目標ごとにKGIを設定し、KPI、モニタリングについては、各事業における毎年度の行動計画の中で設定・管理したいと考える。

これまで計画の中では進捗管理指標としてKPIを設定すると、計画の期間中に変えられないものとして、運用されてきた。

この方法だと、時代の変化や技術革新に対応できず、常に見直しができる仕組みが必要だと考える。

KPIは手段の話で、手段は時代とともに変化し、それが目的化することなく、そもそも何のためにやるのかという問いを、我々は常に問い続けなければいけないと思う。

今までによくある話で、計画に書いてあるからやめられないとか、計画に書いてないからやらないとか、大きな組織にありがちなことになってしまう。

この時代にそういった硬直化した姿勢で大丈夫なのかという、問題意識がある。

また、基本計画と行動計画の間で、3つの目標と各事業の施策の関連性がわかるように、それぞれのKGIとKPIをつなぐ真ん中に新しい指標となる物差しのあり方を検討したいと考える。

例えば複数のKPIを束ねて、総合的に進捗をどう評価するかなどをこれから詰めていくところで、具体的に次年度の計画素案の策定の中で議論していきたいと考える。

次に、本紙19ページである。

本紙の最後のページでは、次期計画の骨子案について、今後のスケジュールを説明する。

次期計画の骨子案については、本日の審議会の審議を踏まえて、修正後、年度内に骨子案として確定する予定である。

次年度は、骨子案をもとに、目標の設定、施策体系を再整理して具体的な施策の検討を行う。

また、策定中の大田区基本構想、大田区基本計画、産業等の計画等とも連携し、整合を図りながら庁内横断的に計画策定を進めたいと考える。

続いて、資料3の骨子案について説明する。

今回の骨子案の構成について、ポイントとなるところを、赤で表示する。

最初に(2)の計画期間について、これまでは10年計画として、5年間で中間見直

	<p>しとしていたが、次期計画では、2025年（令和7年）度を始期とし、2030年度を終期とする6年間と考える。</p> <p>SDGsの目標も2030年、生物多様性も2030年、他の国の計画もカーボンハーフ等のように2030年がくぎりとなっていて、これらの国内外の計画の動きを連動させて、同じ目標を共有して進めていくという点で、2025年から2030年までを一つのイベントのように期待する。</p> <p>今回、新しいものとして、(3)の関連法令計画で、食品ロス削減推進計画を包含する計画として、あわせて策定したいと考える。</p> <p>また、区のSDGs未来都市の取組との連携も重要な課題となる。</p> <p>3点目として、2の区の方針について、(2)3つの目標達成（仮）とし、脱炭素社会への移行、自然再興の取組、循環経済への移行と、区民の皆さんが親しみがたい言い方のため、今後もっとやさしい言葉に変えていきたいと考える。</p> <p>ここについてもご意見をいただきたい。</p> <p>骨子のその他のページについては、本紙で、説明したため割愛する。</p> <p>説明は以上である。</p>
奥会長	<p>今の説明内容について、質問などあればお願いしたい。</p>
坂野委員	<p>目標像について、現行計画の5つの基本目標から、3つの達成目標へ変えて、脱炭素社会への移行とサーキュラーエコノミーとネイチャーポジティブというものが相互に関連して、全体として持続可能な環境先進都市おおたを目指す、これはすごくうまくできていると初めて見たときには思った。</p> <p>ところが基本目標との関係のところでは気が付いたのが、実は5つの基本目標のうちの4つが環境に直接関係していて、実は従来ある公害の問題で環境あるいはアメニティに関する環境問題と、新たに今の地球全体の環境問題を考えたときに取り組む3つのポイントを考えながら都市づくりをするのが新しい側面なので、そこを中心にして、関係性をつくって方向性を示す意味合いがあると感じた。</p> <p>環境問題におけるローカルな問題と、グローバルな問題の違いとして、我々が今行動したこと自体が、地球全体に関わるし、地球全体の他の人たちがやっていることが我々に影響する相関関係の中で、ローカルに何ができるかを我々は考えなければいけない問題と、大田区の住みやすさの問題は必ずしも地球全体に影響するわけではないので、安全で安心で快適な住みやすい都市を作っていくことは、ベーシックな目標としては残っている気がする。</p> <p>ただ、この綺麗な絵をどう書き換えるかを考えると、提案がないので、こういう発言をするかどうか迷っていた。</p> <p>だから、3つの達成目標+1あるいはベーシックな基本目標+1というのがあり、そのベーシックな基本目標案件は、安全で快適で住みやすい町があり、その4つは相互に連携していると、理解していくほうがいいという気がしたが、KGI・KPI考えるときに、今のご提案だと、その3つの枠の中に、公害とか従来の水質とかのアメニティの問題を、どちらかという無理やり、3つの目標の中に入れ込んでいよう</p>

	<p>な気がする。</p> <p>仮に4つの柱立てにすると、安全安心で快適なで、KGI、KPIが設定でき、意外と自然な流れになりそうだが、ただし絵としては美しくなくなってしまう。</p> <p>2番目は、KGI・KPIが設定するのは賛成で、非常にいいことだと思う。</p> <p>少し分かりにくいのが、モニタリングという言い方が、私が知っているKGI・KPIの中にモニタリングはあまり出てこないの、先ほどの説明にあったモニタリングにあたる部分は、環境基準について話されたので、公害とか大気の水質とかに関わっていると思うので、そこから1本柱を横に出すと、安全で安心を考えたときに、モニタリングというよりはKGI・KPIになり、水質や大気環境基準を実現するために、どんな施策をやったかが実際の事業のKPIになっていけば、すっきりするような気がする。</p> <p>3番目は、先ほどの説明にKGI・KPIの中間の指標を考えるとあったが、基本計画体系で言うと、基本の柱があって、その次に取組方針があり、その次に、具体的な事業が出てくると思う。</p> <p>その中間に当たる指標は、その取組方針と呼ばれているところをいかに評価するかという視点で見ると、KGI・KPIが中間の指標になるので、私は他の自治体でサブゴールインジケータ（SGI）と呼んでいた。</p> <p>それは取組方針が基本的な方針としてあって、それを実現するための取組方針を考えていく中で、中間の指標がはっきり見えてくる気がする。</p> <p>余計なことを考えたかもしれないが、気になったのであえて話をした。</p>
<p>奥会長</p>	<p>3つの指摘は、いずれも重要である。</p> <p>1つ目は3つの大きな目標で、相互に関連している新たな体系図の中で、現行計画の基本目標Dについて、快適で安全な暮らしの実現の中に美しい都市環境の創造と環境保全対策いわゆる公害対策が、うまく表現できないのではないかと。</p> <p>3つの目標の中から、それがすべて抜け落ちるわけではないが、表現ができているかということ、確かにわかりにくいかもしれません。</p> <p>事務局の考えはどうか。</p>
<p>環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長</p>	<p>1点目について、この3つの目標としての整理が一番綺麗な状態と考えているので、これにいろいろつけていくと、非常に話が難しくなってくると考える。</p> <p>考え方として、例えば公害対策の環境基準等は、自然再興の取組の中で吸収できないか、安全安心のアメニティに関する話は、3つの目標の中でいうと、例えば生活とか、円環イメージの中心に入るものと考えている。</p> <p>実際に、環境基準はモニタリング指標として管理ができていると思っていて、例えば、本紙14ページでは、大田区環境アクションプランの基本目標Dにあたる部分である。</p> <p>現状、目標のレベル感がバラバラで、歩きたばこ等の人の生活に関わるところに含まれ、これらを含めると体系自体がごちゃごちゃになってしまうので、むしろ身近な歩きたばこ等の生活に関することについては、基本計画ではなく行動計画の中で管理していくことで、環境とか産業とか生活のうち生活の部分に、貢献し繋がると考える。</p>

	1点目については以上です。
奥会長	2点目はモニタリング指標について、モニタリングという言葉に誤解があるかもしれない、もう少し説明いただきたい。
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>確かにKGI・KPIに比べると、レベル感が少し違うかもしれない。</p> <p>例えば、本紙17ページで言うと、基本目標Dのところの③一般局における光化学オキシダント濃度の年平均値という指標を設定するところもあるが、ある程度基準に向かっていくのではなく、1つの線引きを超えるとアウト、そこまでだったら大丈夫みたいなことになってくると思う。</p> <p>これはゴールではなく、目標にするものでもなく、常にモニタリングしながら、チェックしていくべきものとして整理できると考える。</p> <p>モニタリングについて、KGI・KPIと一緒に並べるかどうかは、事務局の方でも引き続き検討しまして、また相談させていただく。</p>
奥会長	続いて、3つ目の新しい指標についても、事務局より回答をお願いしたい。
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>3つ目の新しい指標については、中間指標としての考え方もあると思う。</p> <p>まだアイデアの段階ではあるが、目標を直接目指すのではなく、毎年度の見直しにおいて、KPIを複数束ねることでKGIと比較し参照しながら、進捗度みたいなものを図れないかなというふうに考える。</p> <p>もちろん、サブゴールのように綺麗に整理できるのであれば、一番良いかと思う。</p> <p>今後、いろいろと相談しながら検討していきたい。</p>
奥会長	坂野委員、今の説明でどうか。
坂野委員	<p>まだじっくりこないところはあるが、モニタリングやゴールの考え方は事務局が考えているニュアンスと私が考えているニュアンスが違うので、多分議論がかみ合っていないことがわかった。</p> <p>基準をゴールに会議でのフィードバックやモニタリングして、枠をかけてコントロールしていくのは、すべてのPDCAサイクルの基本になる。</p> <p>ゴールのレベルであろうが、モニタリングという言い方をしたとしても、変わらない。</p> <p>私の要望と事務局の言葉の使い方が違うことがわかった。</p> <p>ただ、一般的に言うとモニタリングという言葉を使うと混乱するので、工夫したほうが良いと考える。</p> <p>KPIをまとめるときの視点として、サブゴールとか、目的手段関係の分析をやらなくてはいけない、目的手段の分析をしたときに、サブ目的みたいなものが設定できていると、論理的な筋道がはっきりするので、基本的なフレームとして、前の基本計画のときに、サブの柱立てみたいなことが考えられていたので、同じようなプロセスを通ったらいいのではないかな。</p> <p>大変なのはよくわかっていてうまくいかないこともあるし、枠組みもない気がする。</p> <p>最初の問題は、どこまでいえるかちょっと悩んでいて、何か代替案があれば強いこ</p>

	とが言えるが、今のところは案がない。
奥会長	<p>3つの目標の表現の仕方は国でもしているし、他自治体でも、既に採用しているところがあるので、従来の公害問題に関わる部分が落ちるわけではなく、その中で経済・社会・環境のところに入るということだと思う。</p> <p>この図でうまく表し切れないにしても、全体の骨子の構成の部分、あるいは行動計画で、例えば歩きたばこの問題を見える化し整理していくか、今後の検討をしっかりとしていくということで、あわせて考えていただければと思う。</p> <p>モニタリングの言葉は、誤解があるのでとにかく現状把握、現状表す指標ということで整理が必要である。</p> <p>坂野委員の意見については、今の時点でこうすべきだという結論を出せるような状況でもないので、引き続き審議会でも検討していきたい。</p> <p>また、今日の意見も踏まえて事務局にも引き続きご検討をお願いしたい。</p>
坂野委員	了解した。
奥会長	他はいかがか。
田村委員	<p>2つの質問と1つ意見を述べさせていただく。</p> <p>16ページのモニタリングについて、私の解釈で資料を見ると、これまでの体系による進め方について毅然としたものを感じないので、今後見直していくといったイメージの資料だというふうに私は解釈した。</p> <p>次期計画においても、このモニタリングの語句を使うという意味か。</p>
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>現段階で考える分類という意味である。</p> <p>坂野委員の意見にもあった、モニタリングという言葉について、皆さんにいろんなイメージがあると思うが、今後、このまま続けていくかどうかということは、今後議論させていただきたいと考える。</p>
田村委員	<p>2つ目の質問について、聞きたい。</p> <p>KGIは、例えば12ページの丸の円の中で、3つの目標である脱炭素社会、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーに1つなり2つなりの、設定を具体的に考えているのか。</p> <p>KPIが取組方針の中で、年次ごとに見直しをできるように、設定したいと考えているのか、その辺のイメージを教えてほしい。</p>
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>1番目について、3つの目標のKGIの設定の仕方は、この3つ目標の中で、それぞれ整理したいというふうに考える。</p> <p>例えば、カーボンニュートラルというのが一番わかりやすいと思うが、こちらが2030年度までにカーボンハーフとか、2050年度までに実質ゼロといったイメージになると考える。</p>
田村委員	<p>この資料には出ていない概念として、OKR (Objectives and Key Results) という概念もある。</p> <p>その辺はどう考えているか。</p>
環境計画課	いわゆるグーグルとかで使われている概念か。

<p>計画推進・温暖化対策担当係長</p>	<p>審議会の場では出ていないが、ここに至るまでには、そういったものも考えているが、今、行政として馴染んでいるのは、K G I、K P Iという言葉になると考える。</p> <p>もし、それ以外の指標ということであれば、いろいろお知恵をいただきながら相談させてほしい。</p>
<p>田村委員</p>	<p>説明の中で、6年計画で2030年度までの計画にしたいと思うが、2030年度という説明があったように、国の大きないろんな指針等を目標にしているの、それに合わせるのが、今回の目標のトップ事象になると思い質問した。</p> <p>私の質問は解消できたので、意見したい。</p> <p>とても分かりやすく、今回の進め方は良いと思う。</p> <p>特にP D C Aを回していくというのは、この審議会で何年も前から話しがあって、次期計画でうまく表現できればと感じる。</p> <p>次期計画の中では、今説明にあったようなP D C Aをまわしていくということ、計画の進め方を作って、ぜひ明記していただきたい。</p> <p>担当の方が変わると、その時の目的がうまく伝わらないというようなことが懸念されるので、次期計画をつくる時の考え方を、次に引き継ぐ方々に対しても、理解してもらえるように、残してほしいと思う。</p>
<p>環境計画課 計画推進・温暖化対策担当係長</p>	<p>P D C Aの考え方は、これまでも計画の中に推進体制として記載しているにもかかわらず、うまくまわっていないのが実情である。</p> <p>まだアイデアの段階ではあるが、補足資料の2枚目のように基本計画と行動計画で役割を整理して管理することを考えている。</p> <p>今までは、お手元にある大田区の環境という冊子があり、それを審議会で評価して、P D C Aをまわしてというような言い方をしていたと思う。</p> <p>ただし、基本計画の中にK P Iのような事業的なものとか、アウトカムのものがあり、審議会で議論しても、結局手法が全く変わっていない。</p> <p>このK P Iに紐づいているので、わかりにくい部分があるので、基本計画と行動計画を分けて、毎年、予算も紐づけてチェックできないかというふうに考える。</p> <p>また、次年度に素案がまとまってきた時に、相談させていただきたいと考える。</p> <p>今までの大田区の環境では計画に関することには触れず実績のみ報告していたが、行動計画みたいに改変して、例えば、1年目は夏の審議会で、行動計画の案を評価していただいて、同じタイミングで予算編成があるので、予算編成と紐づけながら、次年度の計画を冬の審議会で審議頂いて、また次の年の報告で評価する等を考える。</p> <p>その評価に基づいて予算編成して、次の年に実施するというように仕組みの中で管理し、P D C Aが機能するような仕組みを案として考えているところである。</p>
<p>田村委員</p>	<p>私はこれで良いと思う。</p> <p>今説明のあった仕組みが作られているということ記録に残すようお願いしたい。</p>
<p>環境計画課 計画推進・温</p>	<p>はい、承知した。</p> <p>基本計画の中には、P D C Aが機能するような仕組みにきちんと変えていこうと考</p>

暖化対策担当 係長	える。
田村委員	ぜひお願いしたい。
奥会長	他の委員の方は、いかがか。
長谷川委員	<p>田村委員の意見とほとんど同じである。</p> <p>具体的な話をさせていただくと、資料3の4ページに次期計画における3つの目標ごとにKGIを設定するというと、それから目標と施策のつながりとなる新しい指標として検討中と赤で書かれたものがある。</p> <p>この新しい指標の考え方が、私もまだ理解しきれていない。</p> <p>例えば、今、田村委員が言ったようなPDCAサイクルを回すときに、実際にやってみるとC・Aが非常に難しい。</p> <p>P・DはすぐにできるがC・Aを綺麗に回していくためには、つながりとなるCの中に組み込むということが非常に重要だと思う。</p> <p>そのときに、公募区民の委員として言わせて頂くと実際に大田区民として生活していく上で、そういうPDCAサイクルを回そうとしたときに、どういうところに難しさがあるかとか、どういうところを区の行政の方で改良して欲しいとかという意見を吸い上げるところが明確にわかれば良いと思う。</p> <p>例えば、プラスチックごみを私たちの地域では全部ひとまとめにして袋に入れて、回収が始まったけれども、近所の方と立ち話をして出てくる言葉というのは、何で今まであんなに綺麗に分別していたものが1つのビニールの袋に入ってしまうのかという疑問がある。</p> <p>区報等を見ると、なるほどとわかるのですが、ペットボトル以外は、リサイクルするのは難しい。</p> <p>おそらく、RDF・RPF（廃棄物固形燃料化）になるのではというのが環境に興味のある方の意見で、そういった1つの袋に回収し、プラスチックごみがどのように、ごみ排出削減や温室効果ガス削減に繋がるか、もう少しわかりやすく説明があれば良いと思う。</p>
奥会長	事務局の方で、今の意見に対する回答をお願いしたい。
環境計画課 計画推進・温 暖化対策担当 係長	<p>次期計画に向けて、ここには書ききれていないが、やはり見える化というものが、何においても非常に大切というふうに考える。</p> <p>新しい指標については難しい話になるが、そこに限らず、区としてはいろんなものが見える化し、区民の方が納得感を持った上で、取り組むことが大切で計画の中にも姿勢とか、区民の方々がどう取り組めばいいかとかわかりやすくしていかなければと考える。</p>
奥会長	他に意見はあるか。
志々目副会長	<p>坂野委員の意見にあった環境保全対策等をどう位置づけるかについては、私も全く同じ意見である。</p> <p>次期計画において、3つの柱を立てて重要な施策にまとめていくこととされている</p>

	<p>が、いろいろな人に理解をしてもらうために柱を明確にすることは、行政としてある程度妥当なことだと思う。</p> <p>奥会長はご存知かと思うが、国の環境基本計画の見直しの中でも個別の重点施策として、気候変動、廃棄物・循環型社会、自然環境保全があって、これらに加え環境リスク管理や災害対策も並んだ位置付けになっている。</p> <p>東京都の環境基本計画をみると、安全安心の中に公害対策、廃棄物をまとめて、1つの大きな柱として整理している。</p> <p>さらに1本柱を立てるのかどうかの議論は別にしても、ネイチャーポジティブという言葉だけでは、理解が深まらないと思う。国の環境基本計画をみると、「自然資本を基盤とした国土のストックとしての価値の向上」として自然を強調している。</p> <p>大田区の計画においては、折衷案として「ネイチャーポジティブを基盤または基軸として、例えば生物多様性が確保され、安全で安心なまちづくりを目指す」という大きな理念を、次期計画の柱書きのところにしっかり伝わるように記述していくという整理の方向性もあるのではないかと思う。</p> <p>今後、委員の皆様方から意見をいただきながら、議論していくべき内容だと思う。</p> <p>もう1つは、説明のあった審議会資料の本紙17ページのモニタリング指標の中で、光化学オキシダント年平均値について事務局から説明があったが、年平均値と環境基準の達成率を区別している。光化学オキシダントの環境基準は全国でみてもほとんど達成されておらず、ほぼ0%に近い状況である。</p> <p>大田区で一生懸命頑張って環境基準の達成を目指したとしても達成は難しいため、年平均値を1つの指標としてみてきたのではないか。</p> <p>一方、騒音やその他の大気環境基準については、大田区としてもある程度主体になって、目標として設定できるので、書き方を変えたというのが実態である。</p> <p>モニタリング指標とするかどうかの観点よりも、そういう事情から現行の目標が決ったことを踏まえて、モニタリング指標とするのであれば、他の地域の影響を受けるものについては、大田区としてモニタリング指標としていくのも1つの整理であると思う。</p> <p>この考え方については、明確にしたほうがいいのではないかと思う。</p>
奥会長	<p>非常に詳細な説明にもあったが、いかに3つの大きな目標の中で、現行計画の基本目標Dを目指すにしても、環境基本計画においてこれまでの取組の取りこぼしが無いようにしっかりと落とし込んでいくことや、モニタリングという言葉であらわすかどうかの考え方に誤解がないように、しっかり示す必要がある。</p> <p>引き続きどのように表現していくか、審議会で検討していきたい。</p> <p>本日の骨子案について、当審議会での審議事項となっている。</p> <p>なお、骨子案は資料3のと通りの構成案となっており、骨子案として重要で新しいところは、赤字で反転してある部分である。</p> <p>特に、一番下の赤字の部分の3つの目標達成については、本日かなり議論があったところではあるが、このまま打ち出してにおいて、どう表現していくか、どう取りこぼ</p>

	<p>しがないようにしていくかは、今後検討していく。</p> <p>それから一番スライドの下にある4の(2)の進行管理のところは、KGI、KPI、モニタリングという言葉が出ているが、KGIとKPIをしっかりと整理するという方向性は、他自治体ではそこまで踏み込んでいないので、大田区として検討するのは良いと思う。</p> <p>モニタリングという言葉が誤解のないように検討していくことは、指標をしっかりと整理して、進捗管理していくという方向で検討していきたい。</p> <p>これらの大きな方向性と構成案である骨子案について了承いただけるか。</p> <p>了承いただけるのであれば、本日の意見も踏まえて、不明な点や説明が必要な点について事務局の方で今後も検討しクリアにしていくということで、よろしいか。</p> <p>(会場、オンライン参加の委員一同が了承)</p> <p>それでは、こちらの議題について、了承いただいたということにする。</p> <p>今後、さらなる検討を事務局の方でしていただきたいと思う。</p>
<p>3 議題</p> <p>(2) 答申(案)について</p>	
<p>奥会長</p>	<p>では、最後の議題として答申案について説明する。</p> <p>本審議会は、令和4年の8月19日付で大田区長から区長の附属機関として諮問を受けた。</p> <p>そして令和5年度1年間の審議会の内容を踏まえて、今回の区長への答申案として資料4の通りに、取りまとめた。</p> <p>その内容について事務局から説明をお願いしたい。</p>
<p>環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長</p>	<p>答申案について読み上げる。</p> <p>答申案については、令和5年度の審議内容をまとめている。</p> <p>3点あり、1点目が第2次大田区環境基本計画の策定についての調査審議、2点目が大田区環境基本計画の進捗状況についての調査審議、3点目がその他の環境の保全に関する基本事項についての調査審議という、3つでまとめている。</p> <p>1点目について、読みあげる。</p> <p>基礎調査による課題抽出の結果から次期計画の方向性を整理し、その内容を踏まえた計画骨子案となっていることの確認を行った。</p> <p>令和6年度から、計画骨子に基づく計画策定を進めるにあたって、区の他の分野の行政計画と連携を図るとともに、本審議会での審議内容や区民、事業者の意見を十分に反映されたい。</p> <p>2点目について、令和4年度からの3年間の計画期間として策定された大田区環境アクションプランの進捗状況について、大田区の環境の令和4年度実績報告に基づき確認し、審議した結果、概ね計画通りに進捗しているものと認められる。</p> <p>引き続き、PDCAサイクルによる進行管理を行うことを通して、着実な計画の推進と継続的な改善に努められたい。</p> <p>最後に3点目について、大田区環境アクションプランの基本目標C：自然共生社会</p>

	<p>の構築の分野に関する専門部会を開催し、都市部における生物多様性の観点から、自然共生のあり方や、森林環境譲与税の活用に関して意見交換を行った。</p> <p>当該分野における今後の施策展開及び次期環境基本計画の策定に向けて、専門部会の意見等を踏まえた検討を継続されたい。</p> <p>答申案は以上。</p>
奥会長	<p>ただいま事務局のほうで読み上げた答申案の内容について、何か指摘等があれば、頂戴したいと思うが、いかがか。</p> <p>(委員一同が了承)</p> <p>特に異論がないので、こちらで答申として確定する。</p> <p>細かな表現等、改めてチェックし確定をさせていただく。</p> <p>なお、確定した答申書については、事務局に預けて事務局から区長に渡しいただくということにする。</p> <p>事務局もそれでよいか。</p>
環境計画課長	承知した。
奥会長	<p>はい、ではそのようにさせていただく。</p> <p>他に意見はないか。</p> <p>今年度は、専門部会も含め計3回の審議会の開催となった。</p> <p>今後、諮問事項など何か急に出てこなければ、今年度の審議会は終了となる。</p> <p>また、6月で現在の委員の任期が2年経つということで満了になる。</p> <p>今年度、最後になるかと思う。</p> <p>また任期中も最後の審議会になるかもしれないので、発言される方がいればお願いしたいが、いかがか。</p> <p>特にないようなので、それでは、この約2年間の任期において委員の皆様におかれましてはお忙しい中、活発な意見を頂戴し感謝申し上げます。</p> <p>それでは事務局にお返しする。</p>
4 閉会	
環境計画課長	<p>本日は、お忙しい中、長時間にわたりご審議いただき、御礼申し上げます。</p> <p>またこの2年間、環境審議会委員として、ご協力いただき改めて感謝申し上げます。</p> <p>本日頂いた意見をもとに、環境基本計画の策定及び検討をさせていただきたい。</p> <p>以上をもって、本日の審議会を閉会とする。</p>

以上